

### 第3章 流域の社会状況

#### 3.1 土地利用

流域の土地利用は、岡山市をはじめ3市4町1村からなり、岡山県中央部地域を南北にまたがり、流域の土地利用は山林等が約88%、水田や畑地等の農地が約10%、宅地等の市街地が約2%となっている。



図-3.1.1 旭川流域の土地利用図

旭川流域関連市町村における民有地の土地利用状況は平成12年度において、全面積のうち、宅地が9%、田畑28%、森林・原野が63%となっている。

近年の傾向としては、宅地が増加し、農用地が減少している。

表-3.1.1 民有地土地利用の現況(旭川流域関連市町村)

(単位:ha)

区分	平成7年	平成12年
宅地	9,936	11,158
田畑	35,372	34,043
山林	73,159	72,796
原野	2,669	2,692

出典:「岡山県統計年鑑」

### 3.2 人口

旭川流域関連市町村の人口は、平成12年時点では約78万人であり、平成7年の人口に対して約1%であるがわずかに増加している。

旭川流域の人口は平成2年から平成7年にかけて急増している。

流域関連市町村の人口密度は岡山市が突出して大きく、周辺の赤磐市も大きい。また、落合盆地に在る真庭市も周辺に比べて大きい。

人口の推移を見ると、岡山市を含む下流部で増加傾向にあるが、中流部および上流部では減少傾向にある。

表-3.2.1(1) 旭川流域関連市町村総人口推移

(単位:人)

年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
旭川流域	707,757	735,925	754,232	774,902	781,994
上流部	34,248	33,712	32,500	30,461	28,969
中流部	89,880	89,035	86,328	84,862	81,826
下流部	583,629	613,178	635,404	654,102	671,199
岡山県	1,871,023	1,916,906	1,925,877	1,950,750	1,950,828

各年次の国勢調査結果を用いて作成

表-3.2.1(2) 旭川流域内人口推移

(単位:人)

年	昭和53年	昭和58年	平成2年	平成7年
人口	252,018	269,117	276,073	335,359

各年次の河川現況調査結果を用いて作成

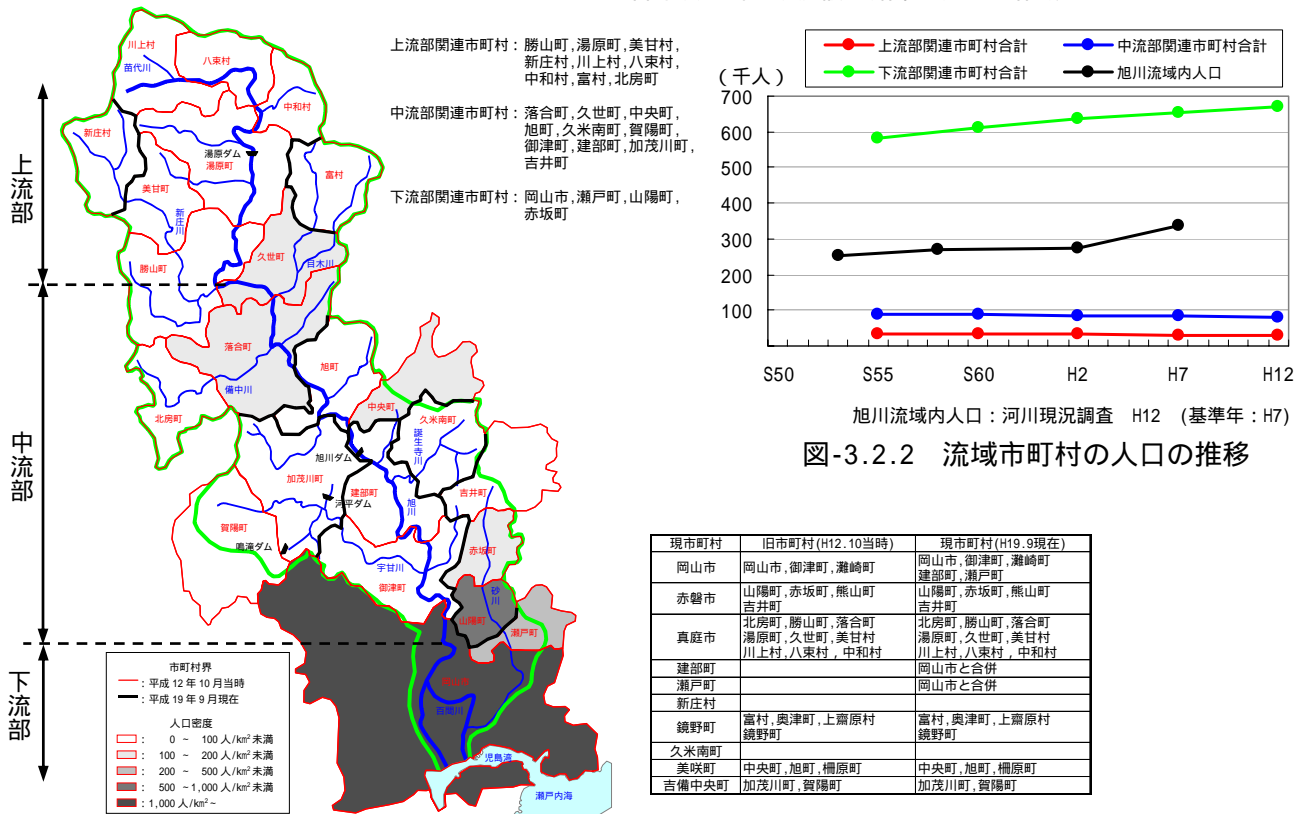


図-3.2.1 流域市町村の人口密度分布(平成12年国勢調査)

### 3.3 産業・経済

平成7年における旭川流域内の産業別の就労人口の割合は、第1次産業が10.3%、第2次産業が27.9%、第3次産業が61.8%となっており、近年は第3次産業が大きく増加している一方、第1次産業が激減している。

表-3.3.1 旭川流域内の産業別就業人口の変化

年	第1次産業	第2次産業	第3次産業
昭和53年	32,095	37,735	62,931
平成2年	23,644	41,776	73,995
平成7年	17,643	47,743	105,606

各年次の河川現況調査結果を用いて作成。

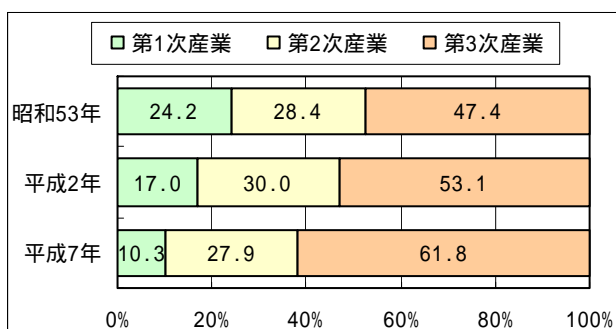


図-3.3.1 旭川流域内の産業別就業人口比の推移

#### 【岡山の代表的な特産物】

マスカット栽培は、明治19年(1886年)に御津郡野谷村(現在の岡山市<sup>かいだに</sup>栢谷)で始まり、全国シェア9割以上を誇る特産品となっている

岡山にこの品種が導入されたのは、岡山市津高に住む旧備前藩士大森熊太郎と山内善男という二人の人物であった。

政府からの払い下げで手に入れた土地を利用して栽培のためのガラス室を建設し、県下で初めて20キロのマスカットの取り入れに成功したのが誕生の発端である。



岡山県農政企画課 HP

マスカット

### 3.4 交通

旭川下流部は、東京、大阪と広島、福岡の中継地点となり、JR 山陽新幹線(新大阪～博多)、JR 山陽本線(神戸～門司)、JR 赤穂線(相生～岡山)、山陽自動車道(神戸～山口)、国道2号(大阪～北九州)といった、重要な交通機関が東西方向に整備されている。

中流部には、岡山県南部地域と、岡山県北部の最大都市である津山市とを結ぶ JR 津山線(岡山～津山)や国道53号(岡山市～鳥取市)などが南北方向に整備され、国道484号(備前市～高梁市)が東西方向に整備されている。

上流部では、JR 姫新線(姫路～新見)や中国自動車道(吹田～門司)、国道181号(津山～米子)、国道482号(京都府宮津市～米子市)などが東西方向に整備され、国道313号(倉吉市～福山市)が南北方向に整備されている。



図-3.4.1 旭川流域の交通網図